

第4章 教育機関	83
1 市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）.....	85
2 市川市教育センター.....	87
3 市川市立図書館.....	89
4 市川市公民館.....	96
5 市川考古博物館.....	98
6 市川歴史博物館.....	100
7 市川自然博物館.....	102
8 市川市少年自然の家.....	104

1. 市川市生涯学習センター

(メディアパーク市川)

〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 (中央図書館)

TEL 047-320-3346(代表) FAX 320-3351



特色

市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）は、市制施行60周年に合わせ平成6年11月、市民の生涯学習を支援する拠点として開館した。

本センターは、視聴覚資料・点字図書・大活字本など75万点を備えた「中央図書館」、グリーンスタジオ・ベルホール・資料室等を備えた文学と映像を活動の基盤とする「文学ミュージアム」、教育相談や研修が行われる「教育センター」、子ども達が遊びを通して感性や創造力を育てていく「中央こども館」、青少年の健全育成のための補導活動や少年相談業務を行う「少年センター」がある。

「読む」「見る」「聞く」「学ぶ」「遊ぶ」が一箇所のできる、新しいタイプの生涯学習施設である。

沿革

- S 63年 4月 中央図書館等複合施設建設検討会設置
- 63年 7月 ワーキンググループ設置（基本計画案検討）
- 63年10月 中央図書館等生涯教育センター建設準備委員会設置
「仮称メディアパーク市川建設基本計画」策定
- 63年11月 用地取得

H元年 7月 「仮称メディアパーク市川建築計画書」策定

元年10月 競技設計実施

2年 7月 基本設計完了

3年 3月 実施設計完了

3年12月 着工

6年 6月 竣工

6年11月 メディアパーク市川開館

利用

○開館時間

・中央図書館

火曜日～金曜日 10:00～19:30

土・日曜日・祝日 10:00～18:00

・こどもとしょかん

火曜日～金曜日 10:00～18:00

土・日曜日・祝日 10:00～17:00

・中央こども館

火曜日～金曜日 10:00～18:00

土・日曜日・祝日 10:00～17:00

・文学ミュージアム

火曜日～金曜日 10:00～19:30

土・日曜日・祝日 10:00～18:00

・文学ミュージアム資料室

火～日曜日・祝日 10:00～17:00

・教育センター

研修班：月曜日～金曜日 10:00～17:00

相談班：火曜日～土曜日 9:00～17:00

・少年センター

電話相談：月曜日～金曜日 9:00～17:00

(木曜日のみ) 9:00～19:00

面接相談：月曜日～金曜日 9:00～17:00

eメール相談：24時間

○休館日（各館共通）

・月曜日

・年末年始（12/28～1/4）

・館内整理日（土・日を除いた月末）

施設

1. 概要

敷地面積 11,012㎡ 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造(地下1階、地上3階 一部4階建)
 建築面積 6,164㎡ 延床面積 19,648㎡ 総工費 125億 1,600万円

2. 施設案内

1階	中央図書館	5,943㎡	・開架フロアを一つにまとめ、小説・参考図書類を配架する ・収蔵能力100万冊 ・他に新聞、雑誌、ビデオ、CD、DVDを置く
	こどもとしょかん	468㎡	・児童図書及び児童文学研究に関する本をそろえる ・おはなし室、くつろぎ広場（じゅうたんコーナー）
	中央こども館	1,655㎡	・遊びを通してこども達の健全育成を図る ・造形スタジオ、プレイルーム、陶芸室、集会室
2階	文学ミュージアム	2,770㎡	・最大260名収容のグリーンスタジオ ・46人収容のベルホール ・文学、映像に関する企画展の開催・映像編集設備・文学研修室
3階	教育センター	2,067㎡	・教育関係者の研修会の実施、教育に関する研究 ・来所による教育相談や、不登校児童・生徒の教室の運営
	文学ミュージアム資料室	200㎡	・市川ゆかりの文学に関する情報、資料室
	少年センター	35㎡	・計画補導・地区補導をとおして青少年の非行防止と健全育成を図る ・少年および保護者等からの相談業務
4階 地下1階 その他	機械室 駐車場 共有部分	6,510㎡	・駐車場99台 ・音楽スタジオ、集会室

3. 整備機能

地下1階

- ・音楽スタジオ
（1室はドラムセット・デジタルピアノを設置、5～6人演奏練習に利用可）

1階 中央図書館

- ・ポピュラーライブラリー
- ・レファレンスライブラリー
- ・レファレンスカウンター
（調べものの相談対応）
- ・ブラウジングコーナー
（新聞、雑誌の軽読書に利用）
- ・障害者サービス室
- ・AVコーナー
- ・インターネット（IT）ブース
- ・対面朗読室
- ・シニアルーム
（研究個室、拡大読書器設置）
- ・ビジネスルーム
（パソコン・電卓持込利用可）
- ・ヤングアダルトルーム
- ・資料検索コーナー
- ・ブックディテクション
（貸出確認システム）設置
- ・相互通話補助装置（フラットループ）整備

1階 こどもとしょかん

- ・おはなし室
- ・くつろぎ広場（じゅうたんコーナー）

1階 中央こども館

- ・アスレティック・フォーリー
- ・光のトンネル ・遊環路

中2・3階

- ・閉架書庫（収蔵能力80万冊）

2階 文学ミュージアム

- ・グリーンスタジオ
最大260人収容、可動床により様々な催しができる多目的スタジオ
- ・ベルホール
- ・通常展示フロア
- ・企画展示室
- ・映像メディア編集室
- ・文学研修室
- ・アナウンスブース

3階 教育センター

- ・研修室4室 ・和室研修室
- ・コンピュータ研修室・教育相談室
- ・和室相談室 ・プレイルーム
- ・ふれんどルーム市川

3階 文学ミュージアム資料室

3階 少年センター

2. 市川市教育センター

〒272-0015 鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335(研修事務室)

047-320-3336(相談事務室)

特色

市川市教育センターは、昭和36年に「市川市教育研究所」として設置された。

昭和58年には「市川市教育センター」に改称し、研修事業、教育相談事業にわけ、機能を整備し拡充してきた。

平成6年11月には、市川市生涯学習センターが設置され、本センターの業務は、生涯学習の基礎づくりを担う一端に位置づけられた。

その業務は研修担当と相談担当に分かれており、研修担当では、学校教育関係者に必要とされる教育職員研修の充実を図っている。教科・領域研修・コンピューター研修などの事業を含めた各種研修会を開催するなど、常に新しい情報の収集と発信及び研究・研修を推進している。

相談担当では、多様な相談内容に、専門知識や臨床経験の多い教育相談員が対応し、悩みの軽減、解消に向けた支援を行っている。また、不登校児童生徒のための適応指導教室の運営充実にも努めているところである。

沿革

昭和36年 4月	・市川市役所内に市川教育研究所を置く
昭和37年 1月	・教育相談事業開始
昭和38年 3月	・小学3・4年生用副読本「私たちの市川」初版発行
昭和48年 4月	・教職員研修事業開始
昭和49年 4月	・就学指導委員会条例施行
昭和54年 4月	・教育実践記録「いぶき」第1回募集
昭和54年 6月	・「教育いちかわ」1号発行
昭和58年12月	・南八幡5-15-4に移転、「市川市教育センター」と改称
平成元年	・公共図書館と学校とを結ぶネットワーク事業開始
平成 6年11月	・市川市鬼高1-1-4、市川市生涯学習センター3Fに移転
平成 6年	・適応指導教室開級
平成 8年	・文部省指定「学校図書館情報化活性化推進モデル地域」
～10年	
平成11年	・文部省・郵政省指定「マルチメディア活用学校間連携推進事業」
平成13年	・文部科学省指定「次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業」

平成15年	・文部科学省指定「学校図書館資源共有型モデル地域事業」～15年
平成16年	・文部科学省指定「不登校児童生徒の適応指導総合調査研究委託事業」～14年
～18年	・文部科学省指定「スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業」
平成18年	・文部科学省指定「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業」
～20年	・文部科学省指定「学校図書館支援センター推進事業」
平成19年	・「きらきら体験留学事業」
平成21年	・文部科学省委託「学校図書館の活性化推進総合事業」
平成22年	・文部科学省委託「学校図書館の有効な活用方法の関する調査研究」
～24年	
平成22年	・「ほっとホッと訪問相談」指導課より移管
平成25年	・文部科学省委託「学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資質・能力に関する調査研究」
平成26年	・文部科学省委託「学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資質・能力に関する調査研究」

施設

〈所在地〉

生涯学習センター 3階 2,102㎡

(通称メディアパーク市川 3階)

事業

(1) 調査・研究に関する事業

学校教育、社会教育に係る諸機関と協力しながら本市の教育を推進する調査研究を行い、その成果の普及に努める。

① 郷土学習情報化研究員会議

「わたしたちの市川」(小学校3・4年生用副読本)、ホームページ「わたしたちの市川」等の副読本と指導資料を作成する。

② 学校図書館支援センター事業

学校図書館アドバイザーによる学校図書

館支援や公共図書館と学校図書館さらに学校図書館相互のネットワークシステムの構築により、学校図書館を中心とした学校の教育機能を高め、子どもの多様な学びを支える。文部科学省「学校司書の資格・養成の在り方や資質能力の向上等に関する調査研究」委託を受け、事業の改善、充実を図る。

③ コンピューター教育振興事業

コンピューター等のICT機器を活用したわかる授業の展開により、学力の向上につなげ、さらに、校務支援システムの活用により、子どもと向き合う時間の確保を推進する。

又、教職員の研修会を開催し、ICT機器及び各システムを活用できるようにする。

(2) 研修に関する事業

市川市の教職員の資質能力の向上を図るため、市川市、千葉県、文部科学省等の教育施策をふまえ、教育の今日的課題や教職員のニーズに応える研修を行う。

① 確かな学力と豊かな心を育む授業づくりの研修会

- ・教科指導に関する研修会
- ・総合的な学習の時間に関する研修会

② ひとりひとりの子どもを理解し、支援していく研修会

- ・特別な教育的支援を必要とする子へ対応するための研修会
- ・教育相談研修会
- ・難聴・言語教育研修会

③ 学校が現在直面している課題に対応する研修会

- ・職務別研修会
- ・層別研修会
- ・学校図書館研・ネットワーク会議
- ・学校コンピューター担当者研修会
- ・ICT活用研修会
- ・ホームページ研修会
- ・情報モラル教育研修会

(3) 教育情報に関する事業

① 「教育いちかわ」の発行

市川市教育委員会の施策を、子育てに関わる層に広報し、理解と協力を求める。

② 教育実践記録論文集「いぶき」

教育関係者の日々の実践の中から、優れた実践記録を賞揚し、市川教育の向上を図る。

③ 研究ネットワーク「接続する・ひろがる」

最新の研修会情報を提供し、個人の研修会への参加をサポートする。

④ 教科書の閲覧・貸し出し

教科書センターとして各種教科書の展示を常時行っている。

⑤ 学びを支える人間ネットワーク

教育センターに「学びを支える人間ネットワーク」窓口を開設し、学びの支援者等の受け入れ及び情報整備を行い、支援要請に対してコーディネートする。公共施設・行政機関等の情報と合わせて、学校・地域に提供する。

(4) 教育相談に関する事業

市内在住の児童生徒に関する相談について面接等を行い、悩みの軽減や解消を図り、児童生徒の健全育成を図る。

① 教育相談

電話予約による面接相談。3歳から中学校3年生までの保護者を対象に、元教員や臨床心理士等が相談にあたり、カウンセリングや心理療法を行う。

② ほっとホットと訪問相談

電話相談、面接相談、訪問相談。小・中学生の保護者を対象に、不登校や学校生活に関わること、子育てに関するアドバイス等を行う。

(5) 不登校児童生徒に関する事業

心理的な要因による不登校児童生徒に対し、自我の確立および集団生活への適応力の向上を図り、学校への復帰を促す。

① 適応指導教室(ふれんどルーム市川)

不登校の小学生(4年生以上)・中学生に対し、学校と異なる場所で小集団の活動を通して、自我の確立と集団活動への適応力を図る。

- ・教科学習
- ・創作活動
- ・体育的活動
- ・個別相談
- ・体験的活動

ゆったり夏体験(日帰り体験活動)等

- ・保護者の会等

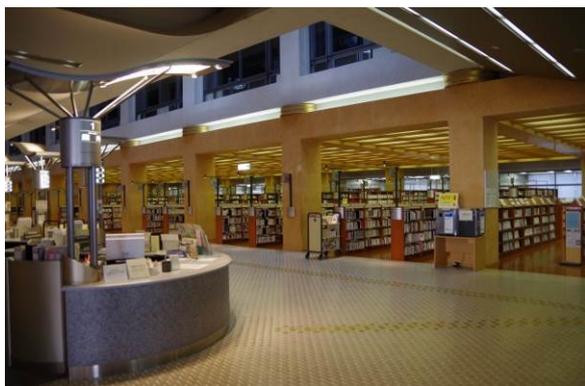
② 訪問指導員派遣

心理学または教育学を専攻する大学院生による家庭訪問を行い、交流を通して、児童生徒の情緒の安定と自信の回復を図り、意欲を引き出す。

(6) 市川市教育支援委員会

特別の支援を必要とする幼児、児童生徒の適正な就園・就学及びその後の一貫した支援に関する事項について教育委員会の諮問に応じ、調査・審議するとともに、その実施について必要に応じ建議する。

3. 市川市立図書館

〒272-0015 市川市鬼高 1-1-4 (中央図書館)
TEL 047-320-3346 FAX 047-320-3351

図書館は、社会を取り巻く様々な課題や個人の生き方について、市民一人ひとりが興味と関心に従って自由に学び、必要な知識を得て考え、意見を作り上げるための資料・情報と学習の場を提供する生涯学習機関である。

本市の図書館の今後の目指すべき方向性を、中期計画（平成23～25年度）では、以下6つの柱に体系的に整理し、また図書館政策の評価を実施、公表することとした。

- (1) 学びを支える図書館
 - ① 身近に図書館が利用できるよう、図書館ネットワークの整備
- (2) 情報拠点としての図書館
 - ① 様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持
 - ② ICタグによる蔵書管理
 - ③ レファレンスサービスの充実
- (3) 子どもの成長をサポートする図書館
 - ① 発達に応じた豊かな読書のための環境の整備
 - ② 教育センターや学校図書館との連携
- (4) 地域の文化を育む図書館
 - ① 市川市の歴史・文化の保存と継承
- (5) 連携や協働で多様なサービスを展開する図書館
 - ① 市民ボランティアとの連携の強化と活動のバックアップ
 - ② 市内外の関係機関とのネットワークの充実による、質の高いサービスの提供
- (6) まちづくりを支える図書館
 - ① 市民生活に必要な情報の取得と積極的な発信
 - ② 議会図書室との連携

沿 革

昭和	
25年9月	創立開館市川小学校に併設（2教室）
32年5月	葛飾八幡宮境内に移転し新設開館
37年5月	夜間開館実施
39年3月	「市川市立図書館設置条例」制定
6月	徳願寺境内に行徳分館開館
43年5月	本館隣りに新館開館
50年9月	移動図書館「みどり号」運行
54年2月	信篤図書館開館
55年4月	行徳分館を行徳図書館に改称
	行徳図書館、移動図書館を本行徳公民館図書室に移転
56年10月	行徳図書館、行徳支所4・5階に移転して開館
58年10月	南行徳図書館開館
60年11月	電算システムを導入し、市内5館をオンラインで結び、システムによる貸出開始
62年10月	平田図書室開室
平成	
元年4月	行徳図書館、行徳支所隣に新館として開館
6年11月	市川市中央図書館開館
12年10月	インターネットで蔵書公開を開始
14年11月	インターネットでの所蔵予約開始
15年3月	自動車図書館車の圧縮天然ガス（CNG）車への更新
17年4月	「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受ける
18年10月	宅配サービス開始
21年4月	指定管理者制度を導入し、市川駅南口図書館開館
23年4月	市川市立図書館中期計画策定
26年11月	中央図書館開館二十周年記念行事（標語、ポスター募集・記念講演会）開催
27年3月	市川市立図書館運営基本計画策定

施設概要

図書館名	中央	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口
敷地面積	11,012		4,958		410	
建築面積	6,164		674	304	120	
延べ床面積	6,411	256	2,223	912	360	573
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上4階地下1階	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上2階	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上5階	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上3階	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上3階	鉄骨鉄筋コンクリート造・地下2階/地上45階(3階部分)
蔵書冊数(冊)	699,780	4,1997	148,752	64,068	43,261	82,962
雑誌(誌)*1	320	36	105	36	37	44
CD(点)	18,717		7,420	35		
ビデオ(点)	4,426		50			
DVD(点)	1,745					1,001
開館時間	火曜日～金曜日 10:00～19:30 土・日曜日・祝 10:00～18:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～金曜日 10:00～19:30 土・日曜日・祝 10:00～17:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～日曜日 9:30～17:00	火曜日～金曜日 9:30～21:00 土・日曜日・祝 9:30～18:00
閉館日	毎週月曜日及び土・日曜日にかからない月末日・国民の祝日 年末・年始及び蔵書点検期間 ※ 中央・市川駅南口・行徳のみ祝日開館					
閲覧席(席)	358	20	172	33	15	61
駐車場(台)	(共有)99		(共有)69	(共有)20		
利用者端末(台)	(*2)32	1	6	1	1	(*2)7
職員数(女性)*4	34(21)	3(1)	11(5)	4(1)	3(1)	指定管理者制度
司書数(女性)*4	26(20)	1(1)	9(4)	3(1)	2(1)	指定管理者制度
交通手段(最寄駅)	京成鬼越駅より徒歩13分 JR本八幡駅下総中山駅より徒歩15分	JR本八幡駅より徒歩10分 京成菅野駅より徒歩8分	東西線行徳駅より徒歩5分	東西線原木中山駅より徒歩2分	東西線南行徳駅より徒歩15分	JR市川駅より徒歩2分

*1 購入雑誌のみ。

*2 Web-OPAC・ITブース等を含む。

*3 外部データベース閲覧3台含む

*4 再任用職員を含む。

事業概要

(1) 資料の提供

市内に5館1室の施設を配置し、市川市在住・在勤・在学の者に対して、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料等多様な資料の提供を行う。各館をオンライン化し、できるだけ均質なサービスの提供に努めるとともに男女共同参画センター情報資料室等の類縁機関との連携や市内各所への返却ポストの配置(平成27年4月現在12箇所)により、利便性の向上に努めている。

(2) 資料収集

「市川市立図書館の蔵書の構築に関する指針」に基づき「市川市図書館分類別収集基準」、各年度ごとの「資料収集計画」という体系のもとで資料を収集する。選書にあたっては、中央図書館で毎週選書に関する会議を開催し、全館分の最終的な確認を行い、市川市全体で効果的な図書購入をしている。また、新刊購入だけではなく、既刊図書の買い替えや補充、復刊図書の購入などにも留意し、蔵書の適正な維持に配慮している。

①地域行政資料

郷土の歴史を後世に伝えるため、市川市に

関する資料を中心に、千葉県内の郷土に関する資料を積極的に収集・提供する。又、市川市民の著作の収集に努める。

② 視聴覚資料

CD・ビデオ・DVD等時代に合った記録媒体を提供するよう、幅広い資料収集と保存を行う。

③ 逐次刊行物資料

最新の情報を得られる速報性を踏まえ、市民の多様な興味・関心に留意し逐次刊行物（新聞・雑誌）の収集・整理・保存を行う。

（3）リクエストサービス

①リクエストサービス

利用者の求める図書が、図書館にない場合、貸出資料の予約や相互貸借、購入により提供するサービスである。

②国・県・市町村図書館との相互協力

リクエストされた資料が、市川市内の図書館に所蔵が確認できない場合、国立国会図書館・県立図書館及び他の市町村図書館等から、資料を取り寄せて提供するサービスである。

平成26年度は、県内市町村図書館への貸出冊数は3,679冊、借用冊数は4,374冊となっている。

（4）自動車図書館サービス

図書館だけでは補いきれない地域の人達や身体に障害のある方、高齢者等、図書館を利用しにくい市民のために運行している。車は圧縮天然ガスを燃料とする環境対策車。

平成26年度末の蔵書冊数は17,258冊、延べ利用者数は5,898人、貸出点数は、26,386点となっている。

（5）レファレンスサービス

探している資料が見つからなかったり、知りたい「人」や「事柄」についてどんな資料を調べればよいかなど、利用者の調査・相談の手助けをする。寄せられた質問とこれに対する回答の事例はデータベース化して蓄積し、ホームページ上で公開するとともに国立国会図書館のレファレンス協同データベースにも提供している。

平成26年度の実績は71,098件となっている。



（6）学校図書館支援センター事業

学校での「調べ学習」や「読書」を活発に展開させ児童・生徒の「自ら学ぶ力」を養い育てるために、公共図書館と学校図書館が連携し、児童の「調べ学習」や「読書」を支援している。図書館で学校図書館支援専用資料として約1万3千冊を中央図書館で管理し、通常の図書館資料と併せて提供している。

平成26年度においては学校よりの依頼件数は544件、5,869冊の貸出があり、その他に学級文庫用に5,380冊を提供した。

（7）千葉商科大学付属図書館とのネットワーク事業

市内在住・在勤・在学の市川市立図書館利用者に、中央図書館で紹介状を発行することにより、千葉商科大学付属図書館の利用が認められる。この提携は、より専門的になってきた市民の要求に対応するため、市川市立図書館側が提案し大学側の理解を得て実現した。同大学は以前より公共図書館及び所属大学図書館の紹介があれば閲覧、複写のサービスを行っていたが、利用券の発行があれば貸出サービスも受けられる。

平成26年度の紹介状発行件数は105件。

（8）和洋女子大学メディアセンターとのネットワーク事業

市川市在住・在勤・在学の市立図書館利用者は、和洋女子大学メディアセンター(図書館)所蔵の図書を市立図書館(中央・行徳・信篤・南行徳・市川駅南口・平田)の館内で閲覧することができる。市立図書館に所蔵がない図書が対象で、希望する図書の書誌事項をリクエストカードに記入の上、市立図書館のカウンターで申し込む。閲覧期間は2週間以内である。なお、雑誌・視聴覚資料・貴重書・館内閲覧資料は除く。

平成 26 年度、和洋女子大学より借用件数は 3 件（7 冊）市川市立図書館よりの貸出件数は 2 件（3 冊）

(9) 公民館図書室

7つの公民館（西部・東部・曾谷・大野・市川・市川駅南・本行徳）に公民館図書室があり、それぞれの地域に密着したサービスを提供している。平成 12 年 10 月より西部・大野公民館、平成 15 年 6 月より曾谷公民館、平成 16 年 6 月より東部公民館に図書館端末を設置し、図書の貸出・返却・予約の拠点となり、連絡車が週 2 回巡回している。

(10) 市民図書室

4つの小学校（塩焼・稲越・福栄・大柏）に市民図書室があり、それぞれの地域に密着したサービスを提供している。平成 12 年 10 月より図書館端末を設置し、図書の貸出・返却・予約の拠点となり、連絡車が週 2 回巡回している。

(11) 児童サービス

児童サービスは、子どもたちが幼い頃から本に親しむことで、本から様々な興味を見いだし、本の世界の楽しさを知ることができるよう、子どもと子どもをとりまく大人に対してサービスを行う。

(12) ヤングアダルトサービス

中学生・高校生を中心とした世代を、Young Adult（若い大人）としてとらえ、児童書・一般書の枠にとらわれずに中学生・高校生向けの資料を集めた Young Adult コーナーを中央・行徳・信篤・南行徳図書館に設置。中央図書館ではグループで調べ学習等の活動ができる Young Adult Room があり、掲示板を置き、情報交換の場としても利用している。

(13) 障害者サービス（図書館利用に障害のある利用者へのサービス）

心身等、図書館を利用する上で何らかの障害がある方に、それぞれの状況に応じた最も利用しやすいサービスを提供する。

(14) 返却ポストの設置

返却の利便性向上のために市内 12ヶ所（市川市役所本庁舎・八幡市民談話室・情報プラザ・市川公民館・南行徳市民センター・歴史博物館・大野公民館・塩浜市民体育館・千葉商科大学付属図書館・イオン市川妙典店・中山窓口連絡所・ベルクス市川堀之内店）の図書館外施設に、図書と雑誌が返却できるポストを設置。平成 26 年度の実績は、約 22 万冊の返却があった。

(15) 外国人利用者へのサービス

国際化社会に対応した多文化サービスの実現、さらに多文化を知りその背景を理解し共存していくことを目的にしているため、今後ますますその意義と必要性が求められているサービスである。その一環として、平成 18 年 5 月、大韓民国ソウル特別市江南区がインターネット上で運営している電子図書館の I D 1 万件の贈呈を受けた。これにあわせて中央図書館に電子図書館閲覧コンピューターを設置した。

平成 26 年度主な言語別蔵書冊数は、英語 7,221 冊、中国語 3,902 冊、韓国語 1,614 冊その他の言語 1,602 冊となっている。

(16) リサイクルブック市

図書館の不用図書（除籍資料・寄贈資料のうち、すでに図書館で所蔵しているために受入しないと決定した資料）を有効利用するため市民に提供する。市川図書館友の会の協力のもと実施。

平成 26 年度中央図書館リサイクルブック市の実績は、一般参加者 1,358 名、提供冊数 14,755 冊。

統計は別紙



平成26年度統計

(1) 蔵書冊数(平成26年度)

(単位:冊)

一般書	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
0総記	10,825	72	381	2,123	596	374	318	14,689
1哲学	21,061	188	736	2,993	1,302	698	686	27,664
2歴史	29,061	334	1,590	7,901	2,427	1,941	2,908	46,162
3社会科学	53,580	376	2,469	13,926	3,276	2,303	1,618	77,548
4自然科学	24,234	310	1,429	5,774	1,888	1,311	1,033	35,979
5技術	18,580	1,421	3,150	7,727	3,721	2,688	5,966	43,253
6産業	8,402	173	760	2,526	770	568	871	14,070
7芸術	32,539	397	2,159	8,716	3,235	1,590	2,896	51,532
8言語	9,306	45	437	1,807	509	361	582	13,047
9文学	50,679	6,356	9,523	26,841	17,356	8,998	7,614	127,367
郷土行政	46,516	0	511	3,603	829	618	307	52,384
参考資料	24,170	0	149	1,954	566	247	397	27,483
外国語資料	13,556	0	0	783	0	0	0	14,339
障害者資料	10,205	248	0	558	0	0	0	11,011
コーナー別資料	245,292	0	4,169	22,688	11,210	5,882	43,901	333,142
一般計	598,006	9,920	27,463	109,920	47,685	27,579	69,097	889,670

(単位:冊)

児童書	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
0総記	427	42	103	297	235	70	91	1,265
1哲学	496	21	86	209	100	64	66	1,042
2歴史	4,433	92	495	1,787	728	584	438	8,557
3社会科学	4,035	77	466	1,542	514	540	453	7,627
4自然科学	8,899	585	1,299	2,867	1,746	1,365	1,124	17,885
5技術	2,979	242	439	1,223	575	460	580	6,498
6産業	1,626	67	249	530	240	265	206	3,183
7芸術	3,950	367	604	1,557	815	613	759	8,665
8言語	830	23	142	312	135	162	131	1,735
9文学	28,287	2,212	4,014	11,221	5,646	4,863	3,237	59,480
E絵本	39,997	3,456	6,366	15,502	5,148	6,254	6,394	83,117
P紙芝居	1,004	154	247	507	144	257	287	2,600
児童郷土	1,375	0	6	274	108	8	0	1,771
児童参考	742	0	18	306	86	45	99	1,296
児童研究	2,694	0	0	698	163	132	0	3,687
児童計	101,774	7,338	14,534	38,832	16,383	15,682	13,865	208,408

図書計	699,780	17,258	41,997	148,752	64,068	43,261	82,962	1,098,078
-----	---------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	-----------

(単位:点)

図書以外	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
雑誌	38,228	0	1,372	6,995	1,606	1,712	1,349	51,262
ビデオ	4,426	0	0	50	0	0	0	4,476
DVD	1,745	0	0	0	0	0	1,001	2,746
CD	18,717	0	0	7,420	0	0	0	26,137
その他付録等	3,746	0	44	487	14	22	125	4,438
図書以外計	66,862	0	1,416	14,952	1,620	1,734	2,475	89,059

総計	766,642	17,258	43,413	163,704	65,688	44,995	85,437	1,187,137
----	---------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	-----------

(2) 分類別貸出冊数 (平成26年度)

(単位:冊)

一般書	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
0総記	5,601	57	523	4,159	574	659	1,746	13,319
1哲学	28,232	322	1,589	12,880	2,001	1,907	8,151	55,082
2歴史	23,812	570	3,705	27,232	4,501	4,921	25,303	90,044
3社会科学	43,102	652	3,477	30,491	3,317	3,655	12,427	97,121
4自然科学	20,289	490	1,708	14,081	1,923	1,755	5,410	45,656
5技術	21,838	2,246	5,930	43,325	7,847	7,949	40,568	129,703
6産業	6,310	227	955	7,739	814	987	4,731	21,763
7芸術	24,988	418	1,962	14,546	3,593	2,281	13,544	61,332
8言語	15,643	129	690	5,358	968	573	4,120	27,481
9文学	28,355	5,607	13,972	74,001	17,180	14,858	50,708	204,681
郷土行政	4,063	6	124	711	150	233	847	6,134
参考資料	881	0	3	37	1	11	20	953
外国語資料	4,739	0	34	1,008	31	25	288	6,125
障害者資料	8,396	89	201	875	34	23	399	10,017
コーナー別資料	683,426	1,394	19,100	146,297	34,317	23,806	231,100	1,139,440
一般計	919,675	12,207	53,973	382,740	77,251	63,643	399,362	1,908,851

(単位:冊)

児童書	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
0総記	573	35	135	522	74	82	297	1,718
1哲学	1,312	38	133	585	86	87	517	2,758
2歴史	5,640	60	344	2,654	316	360	1,592	10,966
3社会科学	6,943	130	395	3,643	263	432	1,942	13,748
4自然科学	13,165	914	1,379	8,590	835	1,167	3,657	29,707
5技術	7,332	577	855	6,130	972	1,334	3,424	20,624
6産業	1,862	142	332	1,120	222	353	563	4,594
7芸術	10,695	949	1,164	6,862	1,524	1,531	4,644	27,369
8言語	1,395	64	120	1,135	89	201	482	3,486
9文学	68,910	3,656	8,901	43,986	7,179	8,862	24,798	166,292
E絵本	168,326	7,109	14,038	97,709	16,474	19,796	54,290	377,742
P紙芝居	6,214	307	570	3,590	336	532	1,889	13,438
児童郷土	1,102	3	5	47	14	3	5	1,179
児童参考	138	0	0	19	4	2	9	172
児童研究	1,246	1	12	255	16	23	120	1,673
児童計	294,853	13,985	28,383	176,847	28,404	34,765	98,229	675,466

図書計	1,214,528	26,192	82,356	559,587	105,655	98,408	497,591	2,584,317
-----	-----------	--------	--------	---------	---------	--------	---------	-----------

(単位:点)

図書以外	中央	自動車	平田	行徳	信篤	南行徳	市川駅南口	全館
雑誌	53,279	126	4,545	26,390	4,811	5,904	12,027	107,082
ビデオ	4,513	0	4	174	30	54	63	4,838
DVD	21,709	0	172	1,407	219	312	6,384	30,203
CD	77,345	0	1,008	24,573	888	810	5,232	109,856
その他付録等	24,245	68	541	5,999	448	277	29,301	60,879
図書以外計	181,091	194	6,270	58,543	6,396	7,357	53,007	312,858

総計	1,395,619	26,386	88,626	618,130	112,051	105,765	550,598	2,897,175
----	-----------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	-----------

(3) 市民図書館統計

	開室 日数	利用者数		貸出 日数	貸出冊数		受入 冊数	除籍 冊数	蔵書冊数
			一日平均			一日平均			
塩焼市民図書館	146	16,477	112.9	146	32,577	223.1	876	1,431	21,677
稲越市民図書館	144	3,007	20.9	144	8,761	60.8	429	394	15,884
福栄市民図書館	146	8,469	58.0	146	24,939	170.8	823	354	17,751
大柏市民図書館	143	8,291	58.0	143	11,981	83.8	254	225	18,335
計	579	36,244	62.6	579	78,258	135.2	2,382	2,404	73,647

4. 市川市公民館（社会教育課）

〒272-0023 南八幡 1-17-15 南八幡仮設庁舎 2階
TEL 047-320-3343 FAX 047-320-3344

1 公民館運営の基本的な考え方

少子・高齢化、情報化、国際化などの現代的課題解決の必要性和自由時間の増加等が相まって、市民の学習意欲は高まりを見せている。また、そのニーズもますます多様化、高度化を示している。

これら社会情勢の変化に応じて、地域住民の身近な拠点として学習の場と機会の充実を図ると共に学習情報の提供等にも努め、生涯学習の一層の推進に取り組む。

2 具体的な目標

- (1) 施設整備を行い、安全で快適に利用できる施設に努める。
- (2) あらゆる世代が参加しやすい主催講座の企画・実施に努める。
- (3) 生涯学習に関する情報の提供に努める。
- (4) サークルの学習成果の発表の場の提供に努める。

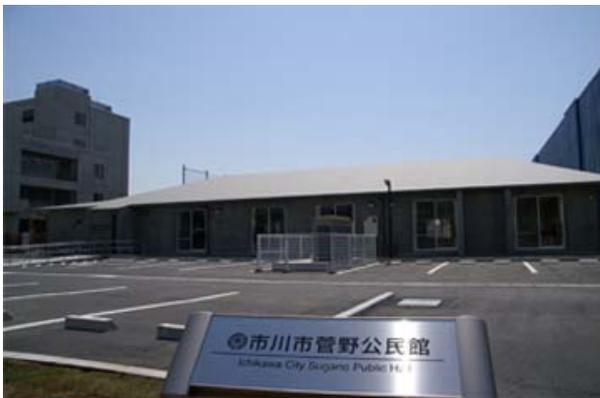
3 「ミーティアムガイド」の発行

生涯学習時代における情報紙として、9月と3月の年2回、公民館主催講座の開催にあわせて発行し、講座内容を紹介している。

新聞折込配布、タブロイド版、2色刷り。

4 利用案内

- (1) 開館時間 午前9時～午後9時
- (2) 休館日 毎月の最終月曜日、祝日による休日、年末年始（12月29日～1月3日）



菅野公民館（H23年4月開館）

5 沿革

- 昭和27年5月 市川市公民館が開館（現在の中央公民館）
- 昭和49年11月 西部公民館が開館
市川市公民館を中央公民館に改称
- 昭和53年9月 行徳公民館が開館
- 昭和53年10月 鬼高公民館が開館
- 昭和54年4月 東部公民館が開館
- 昭和55年3月 柏井公民館が開館
- 昭和55年4月 本行徳公民館が開館
- 昭和56年5月 市川駅南公民館が開館
- 昭和56年9月 大野公民館が開館
- 昭和57年4月 信篤公民館が開館
- 昭和58年5月 曾谷公民館が開館
- 昭和62年5月 若宮公民館が開館
- 平成元年4月 「公民館だより」発行
（翌年「カルチャーガイド」に改称）
- 平成元年5月 幸公民館が開館
- 平成2年5月 南行徳公民館が開館
- 平成3年5月 市川公民館が開館
- 平成7年10月 一部公民館にて月曜開館の試行開始
- 平成10年9月 公募により公民館の愛称を「ミーティアム」に決定
- 平成11年4月 公民館組織改正
（地域別に4ブロック制に）
- 平成12年4月 公民館使用料の改正
（1時間単位の予約に）
- 平成12年5月 インターネットによる公民館予約システム開始
- 平成13年3月 「ミーティアムガイド」発行
（「カルチャーガイド」を改称）
- 平成13年4月 公民館組織改正
（公民館センターの設置）
- 平成14年4月 行徳公民館に新館を増設
- 平成16年6月 中央公民館菅野分館が開館
- 平成17年4月 全館月曜開館の実施
- 平成18年4月 夜間を管理委託から直営に
- 平成23年4月 菅野公民館が開館
- 平成25年4月 公民館組織改正
（公民館センターから社会教育課に変更）

6 平成26年度の状況

公民館名	総利用者数 (人)	主催講座 (講座数)	平成26年度主催講座の例
中央	45,288	16	日本人とお箸—マイ箸作りに挑戦 親子で挑戦♪手作り絵本
鬼高	25,404	19	戦国武将と関東地方の様相 赤ちゃんとママのリズムで遊ぼう
信篤	74,406	17	私流エコクッキングdeごちそうさん 秋の山野草と風景を淡彩で描く
東部	101,606	21	英会話入門 笑顔と度胸で大丈夫 渡り鳥の習性と観察
柏井	29,894	15	陶芸にチャレンジ 初歩からのアコースティックギター入門
大野	83,476	18	歩いて学ぼう 大野・大町・柏井の歴史 聴覚障害者のための料理教室
若宮	36,914	17	10歳若返る！誰でもできる夜の健康体操 親子で文字を覚えましょう
市川	109,357	23	歩いてみようよ「市川の街」 学んでリサイクル 作ろう紙バッグ
西部	97,254	17	「自然科学入門」大人の動物園講座 星空を覗いてみよう
市川駅南	68,471	22	ボイスレッスンで美声を目指そう 嗚呼、懐かしのラジオ体操
曾谷	136,719	19	みんなで奏でるトーンチャイム 人気シェフに習う中華料理
行徳	159,319	22	心のやすらぎ 写経体験 新旧風景—文学の舞台となった市川
本行徳	31,817	20	水中ウォーキングで健康アップ 子ども 書初め教室
幸	36,360	17	古布で作る夏のブローチ2種 バレンタイン口笛コンサート
南行徳	90,717	18	幸せ願う つるし飾り スマートフォンに親しもう
菅野	33,072	19	誰でも笑える英語落語 野性味と微笑みの円空仏を彫る
合計	1,160,074	300	

5. 市川考古博物館

〒272-0837 市川市堀之内2-26-1
TEL 047-373-2202 FAX 373-2205

▲博物館全景

特 色

市川市は、原始・古代の遺跡が多く、しかも堀之内貝塚・曾谷貝塚・姥山貝塚・下総国分僧寺跡・下総国分尼寺跡など、国の史跡に指定されている遺跡を含んでいる。これらの遺跡から出土した考古資料によって、原始・古代の市川を中心とした地域の歴史の歩みを体系的に理解し、学べる考古専門館である。

生涯学習の時代の一翼を担う多彩な講座、体験学習、見学会などの実施によって、市川の歴史に対する認識を高め、郷土に対する愛着を深めてもらうよう努めている。

沿革

- 昭和47年11月 市立市川博物館として史跡堀之内貝塚の隣地に開館。
50年2月 登録博物館となる。登録第7号。
57年11月 市立市川歴史博物館の開館に伴い、館名を市立市川考古博物館に改称。
60年3月 常設展展示替えによる新装開館。

施設

建物構造 鉄筋コンクリート造2階建（一部地階）
敷地面積 7,253.00㎡（うち駐車場 990㎡）
建築面積 931.80㎡
延床面積 1,513.68㎡

〔主な施設〕

ホール展示室 90.9㎡
常設展示室 387.2㎡
学習室 28.2㎡
収蔵室 346.5㎡

●博物館案内図



交通機関

- 北総線「北国分駅」から徒歩10分
- JR総武線「市川駅」・京成線「市川真間駅」から京成バス「北国分駅」行き、「松戸駅（国分経由）」行き、「聖徳学園」行きで、「博物館入口」バス停下車徒歩10分。

収蔵資料

市川市史編さん事業や博物館・教育委員会（一部）による発掘資料と、個人から寄贈された考古資料などを収蔵している。

- (1)先土器（旧石器）時代関係
今島田遺跡、殿台遺跡
- (2)縄文時代関係
杉ノ木台貝塚、美濃輪台貝塚、上台貝塚、向台貝塚、今島田貝塚、姥山貝塚、曾谷貝塚、堀之内貝塚等
- (3)弥生時代関係
須和田遺跡、宮久保遺跡、殿台遺跡、杉ノ木台遺跡、小塚山遺跡等
- (4)古墳時代関係
須和田遺跡、今島田遺跡、鬼高遺跡、杉ノ木台遺跡、法皇塚古墳等
- (5)奈良・平安時代関係
下総国府跡、下総国分僧寺跡、下総国分尼寺跡、須和田遺跡、国分遺跡等

事業

1 常設展示

過去10数万年間の自然環境の変化を導入とし、最初に住民がやってきてから律令社会が成立・崩壊していくまでの原始・古代の歴史を、市川を中心に展示している。

<展示内容>

○前室 環境の変化

過去10数万年の間でも自然環境は大きく変化していることを、貝化石、クジラ化石、サンゴ化石、地層模型などで紹介している。

○第1室 最初の住民<先土器時代>

原人、旧人、新人の胸像模型と、1万年以上も前の寒冷な時代に、主として狩りで暮らしていた人々の石器を展示している。

○第2室 貝塚の形成<縄文時代>

土器を使用した縄文人は、狩猟、漁労、植物採集で計画的に生活していたことを、豊富な貝塚の出土資料やジオラマにより複元。埋葬法、縄文人骨とその特徴などを実物や写真で紹介している。

○第3室 農耕の開始<弥生時代>

大陸、半島から伝来した稲作等の農耕と鉄器の使用が人々の暮らしを大きく変えたことを、甕棺、青銅器、金印など西日本の事情を加えて説明している。

○第4室 古墳の出現<古墳時代>

大和王権が各地を統一しようとした時代で、市川には6世紀半ばの法皇塚古墳がある。その出土品、当時の土器の土師器と須恵器、鉄やカマドの普及を紹介している。

○第5室 律令の社会<奈良・平安時代>

7世紀後半以降、律令を基にした中央集権国家が成立する。市川には下総国の政治の中心である国府と官立寺院の国分寺が置かれた。仏像、瓦、墨書土器、役人の服、伽藍模型や庶民にかかわる遺物を紹介している。

2 展示

企画展示

- ・「古代の村ムラ ―戸籍と遺跡」

3/9～5/25

ホール小展示

- ・「下総国分寺の瓦づくり」4/1～6/15
- ・「考古博物館40年の今と昔」

6/28～H27. 6/13

速報展

- ・「道免き谷津遺跡」1/11～5/18

3 利用状況 (平成26年度) 開館日数306日

	個人			団体			計		
	18歳未満	18歳以上	計	18歳未満	18歳以上	計	市内	市外	総計
常設展示	5,274	14,259	19,533	7,812	2,472	10,284	21,857	7,960	29,817

3 講座・説明会・体験学習・見学会など

行事名	内容
講座・講演会等	<ul style="list-style-type: none"> ○考古学教室 『続日本紀』を読む全9回 『下総国戸籍』を読む全3回 『常陸国風土記』を読む全10回 ○ギャラリートーク 企画展のコーナー解説3回 ○国際博物館の日記 「聖徳太子の真実」 ○速報展講演会 「縄文時代晩期の道免き谷津遺跡」
体験・見学会・養成	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館体験学習 土器をつくろう 全4回 火をおこそう 1回 勾玉づくり 16回 組紐づくり 36回 ○サマーフェスタ 縄文汁・火おこし ほか ○オータムフェスタ 火おこし・焼き芋ほか ○小学校体験学習 24校 2263人 ○出前授業 5校 3213人 ○企画展関連見学会 「大嶋郷を歩く」 ○第15回縄文体験フェスティバル 縄文の造形・火おこし・勾玉づくりなどを体験 ○遺跡見学会 「銚子方面遺跡見学会」 ○博物館講座見学会 『古墳を歩く』全3回 ○ボランティア養成講座 火おこし指導員の養成全2回 縄文学習指導員の養成全4回 組紐ボランティアの養成全3回

4 協力

春史蹟まつり、回遊展in八幡、曾谷縄文まつり、真間史蹟まつり、「真間の入り江」講演会、市川市史編さん事業

5 学生・教員研修

中学生職場体験9校32人、学芸員館務実習6大学6人、体験学習教職員研修会22回

利用

1 利用案内 ・開館時間 9時～16時30分

- ・休館日 月曜、月曜が祝日の翌日
年末年始(12月28日～1月4日)

2 入館料 ・常設展・企画展は無料 ・特別展は会場のみ有料

6. 市川歴史博物館

〒272-0837 市川市堀之内2-27-1

TEL 047-373-6351 FAX 047-372-5770



第4室 台地の人々の生活のコーナー

特 色

原始・古代担当の考古博物館の後を受けて、市川における中世以降の歴史の流れを概観し、海・川・台地という地形を活かしたかつての市域の生活・生業を復元展示している。

本市の歴史民俗資料の滅失・散逸を防ぐため、これらを収集・保管・展示及び調査研究をして保護活用を図り、市民の郷土に対する認識と愛情が深まるよう努めている。

沿革

昭和57年11月 市立市川歴史博物館として開館。

12月 登録博物館となる登録17号。

施設

建物構造 鉄筋コンクリート造2階建(塔屋付)
敷地面積 3,388㎡ 建築面積 1,199㎡
延床面積 2,001㎡

[主な施設]

常設展示室 430㎡ 特別展示室 249㎡
講堂 104㎡ 収蔵室 234㎡

交通機関

- 北総線「北国分駅」から徒歩8分
- JR総武線「市川駅」・京成線「市川真間駅」から京成バス「北国分駅」行き、「松戸駅(国分経由)」行き・「聖徳学園」行きで、「博物館入口」バス停下車徒歩10分、ほか。

案内図は、2ページ前の「考古博物館をご参照ください。

収蔵資料

市川市史編さん事業や博物館・教育委員会(一部)による収集資料と、個人から寄贈された歴史・民俗資料を収蔵している。

- (1)中世(鎌倉～戦国時代)関係
板碑、日蓮関係資料(複製)等
- (2)近世(江戸時代)関係
高札、古文書、塩製造用具等
- (3)近現代(明治～昭和時代)関係
古写真、戦争関係資料、学校関係資料等
- (4)民俗関係
生活用具、農具、漁具、職人関係資料等

事業

1 常設展示

○前室

当館設置の趣旨及び、案内図を配して展示し、室内の配置と順路を示す。また、市内の特徴のある写真や鳥瞰図を展示し、景観的イメージを印象づけて展示室へ導入するとともに、新着収蔵資料等を紹介する。

○第1室 中世以降の市川

中世以降の市川の歴史の主要事項を理解してもらい、各ルームの年代的位置づけを行う場として、パネルと資料で紹介する。
展示資料：立正安国論(複製)、空襲日誌等

○第2室 海辺の人々の生活

かつては交通の要所で、関東地方最大の塩の生産地でもあり、近代以降は海苔の養殖が盛んであった、市南部の行徳、南行徳の地域は、住宅地として急激な変貌を遂げている。ここでは、海辺の人々の生活を再現し、現在との関わりについて考える場とする。

展示資料：製塩用具、のり抄き用具等

○第3室 水路と陸路

市川市の西側を流れる江戸川は、水路として交通や物資の運搬に重要な役割を果たしてきた。

一方、市内の陸路は、参勤交代や成田参詣への道などがあり、これらが江戸川と交わる

ところに、市川関所と行徳新河岸があった。
 ここでは、江戸時代を中心に示し、床面には
 市域の水路と陸路の概略を紹介する。
 展示資料：往来手形（複製）、笹屋看板等

○第4室 台地の人々の生活

市の北部地域は下総台地の一画で、小さな
 谷津が入り込んだ地形をなしており、人々は
 谷津の泥深い田を耕して生活してきた。ここ
 では、民家の一部を移築復元して、土間を中
 心とした生活を再現し、さらに農耕と年中行
 事を組み合わせる事により、一年を周期とす
 る生活を紹介します。
 展示資料：稲作用具、辻切大蛇等

○第5室 郷土コーナー

郷土市川に関係した人物を「人で綴る市川の
 歴史」と題してまとめ紹介する。また市内の史
 跡や文化財についても紹介し、新着資料や季節
 の民俗資料を展示する。
 展示資料：坪井玄道関係資料

2 展示

企画展「松井天山の鳥瞰図と市川市域」
 27年3月8日～5月10日
 ロビー展示「辻切り」
 27年1月20日～2月22日
 ロビー展示「新収蔵資料展」
 26年6月12日～12月23日

3 講座・説明会・体験学習など（表1参照）

4 協力

回遊展 in 行徳・八幡、菅野公民館他6館
 講座、市川雑学大学、JCN市川、市川市
 史編さん事業

5 研修

市内小・中学校2年目教員研修68人、中
 学生職場体験10校36人、学芸員館務実習5
 大学5人、

利 用

1 利用案内

- ・開館時間 9時～16時30分
- ・休館日 月曜、月曜が祝日の翌日
 年末年始（12月28日～1月4日）

2 入館料

- ・常設展・企画展は無料。

3 利用状況（表2参照）

表 1

行 事 名		内 容
講 座 ・ 講 演 会	○企画展講演会	「鳥瞰図絵師・松井天山の画業と 画風」
	○市川歴史カレッジ （第9期1年次）	市川の歴史・民俗を2年で学ぶ 歴史博物館担当分1回
	○近世史講座Ⅰ	近世史入門講座6回
	○近世史講座Ⅱ	大屋日記購読6回
	○近代史講座Ⅰ	柏井植草家日誌講読全11回
	〃Ⅱ	市川の空襲他全2回
体 験 ・ 養 成	○民具入門講座	市川の民具資料の解説全2回
	○江戸を歩く	市川ゆかりの史跡見学2回
	○市川ヒストリー体 験	「市川の歴史と民俗の講座」他 全2回
	○小学校体験学習	昔の暮らし体験（出前型）4回 ※昔の塩作り、洗濯板体験、 冬の暮らしの道具体験など
	○昔遊び体験	昔の暮らし体験（来館型）22 回 紋切りなど毎週土日
	○博物館サマーフェ スタ	歴史地図づくり全2回
	○博物館オータムフ ェスタ	昔の洗濯体験全1回 わらのリース作り、焼き芋、火 おこしなど
	○縄文体験フェステ ィバル	昔遊び、火打石体験、紙芝居、 組紐など
	○ボランティア養成 講座	藁ぞうり作り指導員養成1回 昔のあそび指導員養成12回

表 2 （平成26年度）開館日数 302日

	個 人			団 体			計		
	18歳 未満	18歳 以上	計	18歳 未満	18歳 以上	計	市内	市外	総計
常設展示	5,280	15,459	20,739	5,842	2,344	8,186	21,533	7,392	28,925

7. 市川自然博物館

URL: <http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>

〒272-0801 市川市大町284番地

TEL 047-339-0477 FAX 047-339-1210



施設

建物構造	鉄筋コンクリート造
	地下1階、地上2階、塔屋付
敷地面積	2,994.0㎡
建築面積	952.8㎡
延床面積	2,052.3㎡
〔主な施設〕	
常設展示室	459.2㎡
特別展示室	111.0㎡
収蔵庫	149.2㎡

特色

市川市は、北部の台地と南部の低地、江戸川と東京湾などの自然環境に恵まれているが、現在は著しく都市化が進んでいる。市川の自然は都市化の中でかろうじて残されてきた自然と、市街地の自然によって特徴づけられる。

市川自然博物館では、こうした「市川の自然」を対象として、地域の自然環境や動植物について記録し後世に伝えるとともに、身近な自然環境や動植物とのつきあいかたを広く市民に伝え、市川市の自然を再発見していただくことを博物館の使命としている。

一般に博物館には、資料収集や保存、調査や研究、教育普及や展示等さまざまな機能がある。当館では、資料収集や調査、研究等により得られた成果を生かした教育普及及び展示活動に主眼をおいている。

沿革

平成元年10月24日 開館

開館記念特別展「市川の植物」

平成2年度 企画展「大町自然観察園の自然」

平成3年1月10日 千葉県博物館原簿に登録

平成3年度 企画展「市川の鳥」

平成4年度 企画展「江戸川放水路の自然」

平成6年度 企画展「市川のさかな」

平成8年度 小企画展「モス・オブ・ザ・ワールド」

平成9年度 企画展「柏井雑木林の自然」

平成12年度 企画展「市川市内の絶滅危惧種」

平成16年度 企画展「長田谷津（大町公園自然観察園）」

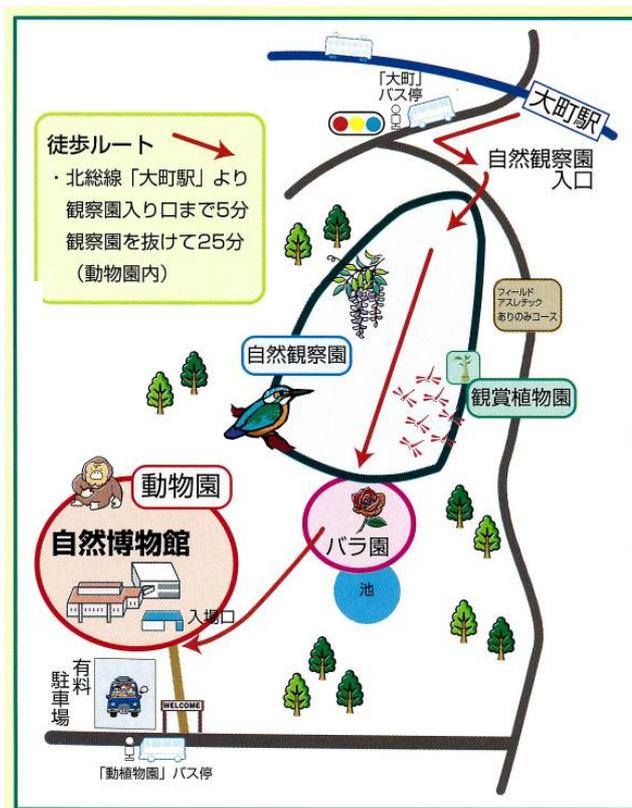
平成19年度 企画展「いちかわの動植物 基本ブック」

平成22年度 企画展「長田谷津（大町公園自然観察園）いきもの暦」

平成25年度 企画展「いきもの成長」

企画展終了後、展示を継続

博物館案内地図



交通案内

JR武蔵野線市川大野駅より、動植物園行き京成バスにて終点下車（土日休日のみ運行）、大町駅行き「駒形」下車徒歩15分（毎日運行）。

収蔵資料

市川市内の自然環境、動植物を主な対象として資料収集し、収蔵している。

種 目	品 目
標本資料	植 物 さく葉標本
	植 物 藻類さく葉標本
	鳥 類 剥製標本
	鳥 類 骨格標本
	鳥 類 古巣標本
	鳥 類 卵標本
	鳥 類 付随標本
	哺乳類 剥製標本
	哺乳類 骨格標本
	哺乳類 付随標本
	魚 類 液浸標本
	昆 虫 乾燥標本
	昆 虫 古巣標本
	昆 虫 付随標本
	貝 類 貝殻標本
	貝 類 液浸標本
	甲殻類 乾燥標本
	甲殻類 付随標本
	地 学 遺骸・化石標本
	地 学 土壌標本
地 学 岩石鉱物標本	
その他 人工物	
映像資料	写真 デジタル画像
	写真 35 ^{ミリ} ポジ原版
	写真 6×7 ^{センチ} ポジ原版
	写真 35 ^{ミリ} ネガ原版
	写真 プリント
	映画 35 ^{ミリ}

常設展示

「市川の自然」をメインテーマとして、次の4つの大きなテーマで博物館資料を展示する。

また、実際に様々な生き物を飼育し展示するコーナーで展示を構成している。

○第1テーマ「市川のおたち」

市川の大地のなりたちと人間の影響による自然の変化について紹介している。

・ひろがる市街地 ・市川の大地

○第2テーマ「残された市川の自然」

都市化が進むなかで、残された林や干潟の自然について紹介している。

・市川の林 ・市川の海辺

○第3テーマ「都市化した市川の自然」

都市化が進み、おおぜいの人々がくらす市街地でいきいきと生活する身近な生き物について紹介している。

・帰化植物 ・都市鳥 ・身近な昆虫

○第4テーマ「湧水の自然」

台地と低地からなる市川の地形によって生み出され、かつては市川のいたるところにあった湧水の自然について紹介している。

・湧水のある大町自然観察園

○飼育コーナー

身近な生き物など、年間を通じて種類を入れ替えて飼育し展示している。

教育普及活動

博物館外での活動として、隣接する大町公園自然観察園（長田谷津）や市内各地での自然体験学習を主催するほか、学校や市民団体などの自然体験学習を積極的に支援している。

行 事 名	内 容
おやこ自然観察会	親子を対象にした自然観察園等での観察会
観察シートを使った観察会	参加者自身が自然観察園の観察ポイントを巡る観察会
季節を感じる散策会	市内の自然豊かな場所を巡り季節の話題を観察
長田谷津散策会	自然観察園（長田谷津）の四季折々を楽しむ
自然講座	学芸員が市内の自然について紹介する室内講座
野草名札付け	自然観察園で学芸員の指導により植物名札をつけるボランティア活動
長田谷津環境整備	自然観察園で学芸員と共に環境整備作業を行うボランティア活動
学校や市民団体等への学芸員派遣	要請により学芸員を派遣する外部支援活動
少年自然の家でのグリーンスクールへの講師派遣	小学生の宿泊学習に伴う自然体験学習の支援
教員の研修受入れ	小中学校教員の研修支援

利 用

●開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）

●休館日 毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）及び年末年始

●入館料 無料

・入館者数（平成26年度） 開館日数 303日

	18歳未満	18歳以上	計
個人	53,602	77,338	130,940
団体	4,520	857	5,377

合計	市 内	市 外	計
	55,176	81,141	136,317

8. 市川市少年自然の家	〒272-0801 市川市大町 280-4 TEL047-337-0533 FAX047-337-0534
---------------------	--



- 引率者用 2室 定員 10人
- ・研修室
 - 第1研修室 1室 定員 80人
 - 第2研修室 1室 定員 50人
 - 和室研修室 1室 定員 40人
- ・視聴覚室 1室 定員 50人
- ・プラネタリウム室 1室 定員 217人
- ・体育室 縦25m 横15m
- ・食堂 1室 最大204席
- ・その他
 - 浴室、事務室、保健室他
- 付帯設備 集いの広場 2,475㎡
野外炊事場

特 色

市川市少年自然の家は、大町レクリエーションゾーン内にあり、動物園・鑑賞植物園・バラ園・自然観察園などと隣接した、大変自然豊かなところにある。

設立主旨：児童・生徒を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活や野外活動を通じて、情操や社会性を豊かにするとともに、心身を鍛練し健全な児童・生徒の育成を図る。

設備：宿泊室・体育室・研修室・集いの広場（キャンプファイヤー場、野外炊事場、トイレ）プラネタリウム室

(2) 交通案内

- ・北総開発鉄道松飛台駅 徒歩 15分
- ・JR武蔵野線市川大野駅 徒歩 30分
または、市川大野駅から京成バス
「大町駅行」乗車、「大町公民館」下車
徒歩 5分・・・乗車時間 約 10分
- ・JR総武線本八幡駅北口から京成バス「大町駅行」乗車、「大町公民館」下車 徒歩 5分・・・乗車時間 約 35分

浴 草

- 昭和 57年 7月 開所
- 8月 プラネタリウム一般公開開始
- 昭和 62年 5周年記念式典
- 昭和 63年 野外活動倉庫建設
- 平成 5年 10周年フェスティバル実施
- 18年 9月 改修工事開始
- 19年 7月 リニューアルオープン
- 23年 4月 祝日開所開始

(3) 近隣地図



施 設（改修後）

- (1) 施設案内
 - 敷地面積 10,514㎡
 - 延床面積 3,731㎡
 - 建築様式 鉄筋コンクリート造4階建て
 - 建物内訳
 - ・宿泊室
 - 児童・生徒用 18室 定員 180人
 - バリアフリー対応型 5室 定員 20人

利 用

- (1) 利用できる人
 - ・少年及び少年を主たる構成員とする団体並びにこれらの引率者
 - ・社会教育に係る学習、文化活動その他の生涯学習の諸活動を行うもので、教育委員会が認めるもの

4章 教育機関

(2) 宿泊利用に関わる経費 (H27. 4. 1 現在)

・ 宿泊使用料 (税込)

市内の方	中学生以下	無料
	高校生以上	540 円
市外の方	高校生以下	2,430 円
	大学生以上	3,240 円

・ シーツ、枕カバー洗濯代 (税込)

1 人 194 円

・ 食事代 (税込)

朝食 550 円 昼食 550 円

夕食 550 円~790 円

《プラネタリウム公開》

◎ 投影開始時刻

毎週土・日・祝日 (元旦除く) 午後 1:30

(7・8 月は毎週日曜日・祝日)

25 名以上の団体は、予約により受付

※ 投影時間は、約 1 時間

・ 入場料 (税込)

	個人	団体
市内の方	160 円	120 円
市外の方	320 円	250 円

◎ 休所日

月曜日 (祝日の場合はその後の平日)

年末・年始 (12 月 29 日~1 月 3 日)

★ 利用状況 (平成 26 年度利用者)

開所日数 308 日 (単位: 団体、人)

区分		団体数	人数	
宿泊利用	市内	幼小中高・特別支援学校	74	5,437
		青少年団体	52	1,403
		その他	16	375
	市外	学校・青少年団体他	50	1,927
	小計 A		192	9,142
プラネタリウム見学	有料	公開日	市内	1,008
			市外	1,249
	団体	市内	4	175
		市外	上記団体	28
	無料	小中高・特別支援学校他	0	0
		その他 (減免団体)	11	1,031
		宿泊団体 D	78	5,152
小計 B		93	8,643	
日帰り利用	プラネタリウム見学なし C		59	3,508
	プラネタリウム見学あり		15	934
	小計		74	4,442
合計 (A+B+C-D)		266	16,141	

★ 主催・共催事業 (平成 26 年度実績)

月	事業名
5	バラ祭り
6	チャレンジャースクール①、プラネタリウムコンサート①
7	ザ・チャレンジ自由研究
8	チャレンジャースクール②
9	親子お月見の会
10	親子宿泊体験
11	大町レクゾーンフェスティバル
12	チャレンジャースクール③、プラネタリウムコンサート②
1	チャレンジャースクール④、冬の天体観望会
2	大人の竹細工工房
3	チャレンジャースクール⑤、健康吹き矢①②

